

ササキホームページでは皆様のお役に立つ情報を公開中です。

ササキ株式会社
ホームページ
SASAKI CO.,LTD.



下記から、アクセスください。



C&C
ケア&コミュニケーション
CARE & COMMUNICATION



下記から、アクセスください。



歯科医院
新規開業・改装サポート
SASAKI STARTUP SUPPORT



下記から、アクセスください。



SASAKI Care & Communication Vol.51 April 2020 お問い合わせ・ご意見:「C&C」事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <https://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。



ケア&コミュニケーション



DOCTOR'S TALK

理想の歯科医院像を
貫いたことが
順調な開業1年目に
つながる

野中歯科医院 院長
野中 裕介 先生

P01-06



INSIDE REPORT

低侵襲医療と
歯ブラシ処方で
生活習慣まで入り込む
予防歯科に注力

ひろ歯科 院長
荒川 義浩 先生

P07-12



THE FRONT LINE

患者それぞれに
違う悩みや希望に
深く寄り添い、
最適な治療を提案

なかい歯科 院長
中居 伸行 先生

P13-18



DENTAL REPORT

「3DS」を活用した
予防歯科に
力を入れる地域密着型の
歯科医院

東船橋駅前歯科医院 院長
西川原 総生 先生

P19-22



低侵襲医療と 歯ブラシ処方 生活習慣まで入り込む 予防歯科に注力

低侵襲医療を実践する「ひろ歯科」は大阪府摂津市にある。3年前からは歯ブラシ処方に取り組み、患者の生活に寄り添う予防歯科に力を入れている。その理由と経緯を伺ってみた。

ひろ歯科 院長 荒川 義浩 先生



父の病院を再活用した 地元密着型の歯科医院

荒川義浩院長は大阪大学歯学部第2口腔外科に4年間在籍し、3年の勤務医を経て開業した。その間、インプラントと訪問歯科診療を学んだことは、開業後も大きな財産になった。

「スタディグループのJIADSでは補綴や歯周外科を学び、日本ヘルスケア歯科研究会、日本接着歯学会でも刺激を受けました。それらの勉強から、しっかり治療しても、患者さんの生活習慣を改善しないと治療の成功につながらないことを実感しました」

「ひろ歯科」を開院したのは、1996年。現在地の隣にある駐車場に立っていた雑居ビルでのスタートだった。今のビルに移転したのは、2003年になる。

「このビルは以前、外科医だった父が開業していた外科医院でした。父が引退することになったとき、私が引き継ぎ、歯科医院として再出発しました」

窓がなく、玄関の開閉部があるだけのシンプルな白いタイル貼りの外観は、近隣の建物のなかでもひととき目立つ。

待合室に入ると、まるでドームのように壁面が天井までカーブしながら続いている。診療室もユニットをすり

ガラスで仕切ったモダンなデザインだ。「最初の診療所は一般の設計事務所に頼んだのですが、使い勝手に難があり、後悔していたので、移転改築では歯科専門の会社に依頼しました。1年間、何度もミーティングを重ねて完成したので、愛着もひとしおです。2003年にはタイルメーカーのデザインコンテストで1位をいただきましたし、患者さんからも好評でした」

炭酸ガスレーザーを駆使した 低侵襲医療に注力

「ひろ歯科」の大きな特徴は、「低侵襲医療」に力を入れていることだ。低侵襲医療とは、「できるだけやりにくい治療、なるべく削らないで結果を出す技術」を基本とする。

「うちの歯科医院ではう蝕の治療にターピンはほとんど使っていません。大きく歯を削り取ってしまう原因はターピンにあるからです。その代わり、超音波やエア圧でう蝕を吹き飛ばすエアアブレイジョン治療やレーザーを使って治療しています」

これらの治療機器は、登場したばかりの頃は無痛治療に役立つと脚光を浴びたが、荒川院長はそれだけでなく、患者に負担の少ない治療にも必須という。



入り口を入るとすぐ右に受付がある



通路を兼ねた待合コーナーの壁面から天井までが円形に



タイル張りの壁面に入り口が配置され、ライン状の部分にガラスがはめこまれている



診療室は半個室タイプ。高いパーティションで仕切っている。向かいには準備コーナーが



磨りガラスで仕切ったチェア周りは広く明るい



炭酸ガスレーザーを完備

とはいえ、口腔内のことは患者にはなかなか想像がつきにくい。そこで荒川院長は、一般的な歯科治療と低侵襲医療の違いを患者に分かりやすく伝えるため、「低侵襲医療をあなたに!」という26ページの小冊子を作成した。冊子では、う蝕や歯周病の施術中の写真やイラストを多用し、従来の方法と低侵襲医療の違いを分かりやすく解説している。「私は自分のことを『低侵襲医療の伝道師』だと思っています。患者さんの理解を深めるツールとして、小冊子は最適だと思っています」

「ひろ歯科」の低侵襲医療でとくに活躍するのは、炭酸ガスレーザーだ。炭酸ガスレーザーは通常、軟組織対応

レーザーと認知されているが、荒川院長は硬組織への照射症例が多いという。「炭酸ガスレーザーを導入したばかりの頃は口腔外科と歯周病治療に使っていました。その後、う蝕治療に使うメリットに気づいたのです。炭酸レーザーのメリットは侵襲性の低さ。私はヨシダ製を使用していますが、炭化しにくいスーパーパルスで、照射も一点に集中しない自動円形スキャンングで、削りすぎが防げるのです」

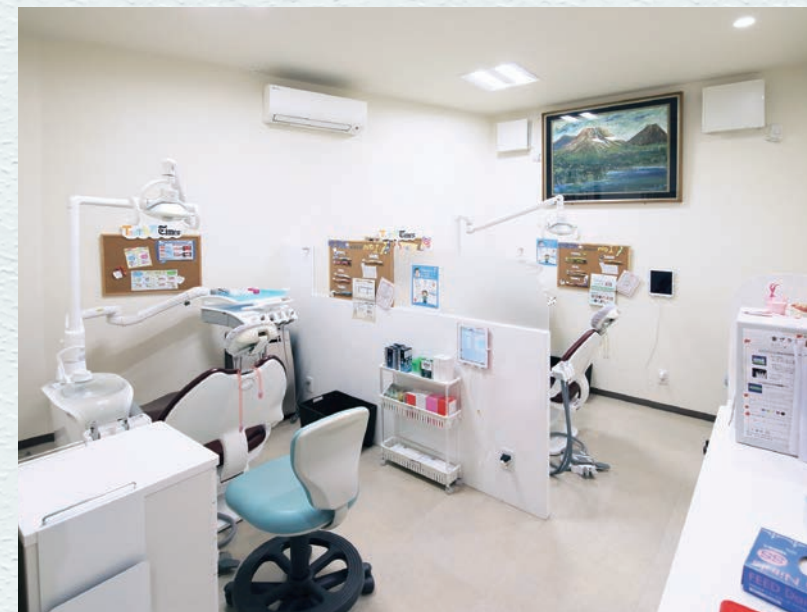
う蝕治療で使用する部位の一つは、修復マージンの明確化だ。もう一つは、取るべき歯象牙質と歯影響象牙の間にあるグレーゾーン。照射することで、滅菌乾燥させることができるので、その後の接着等の精度を



マイクロスコープのモニターを見ながら、炭酸ガスレーザーを操作する荒川院長



マイクロスコープでレーザーの活用範囲も広がった



メンテナンスコーナー。壁のボードは「歯ブラシ処方」のメリットをまとめたもの



メンテナンスは45分かけてじっくり行われている

高めることができる。また、露髄面の照射では、バイタルパルスセラピーの精度を高めるなど、低侵襲治療にはなくてはならない機器になっている。

さらに荒川院長は、3年前から、照射の際、マイクロスコープも併用するようになった。

どのように治療をしているのか、デモンストレーションを見せてもらった。

荒川院長はマイクロスコープのレンズを覗くのではなく、モニターを見ながら照射している。炭酸ガスレーザーとの併用であれば、ミラーテクニックで視野が確保できるのだそう。

「マイクロスコープのよさは、治療中のすべてのプロセス

を動画撮影できることです。記録システムとしてとても優秀なのです。また、治療をしながら、患者さんにモニターを見せ、確認してもらうこともできます。インフォームド Consentにも、歯科医師のモチベーションのアップにも役立つツールだと思います」

患者の口腔ケア改善に「歯ブラシ処方」を採用

低侵襲医療では施術後、定期的な歯周病の予防やフッ素で歯質強化しながら、治療部位が悪くならない

歯ブラシ処方で予防意識を高める

歯ブラシ処方を始めて、なによりも変わったのは患者さんのモチベーションです。メンテナンスでチェックすると、たいていの場合、磨き残しが見つかるので、患者さんは注意されることが多くなります。でも、それではやる気が引き出せません。歯ブラシの「処方」をツールにして指導をすると、具体的にほめられることが増えるので、患者さんのやる気が違ってきます。

「ひろ歯科」では、歯ブラシ処方箋に特別感を持っていただくために、黒い封筒に金文字で印刷した特別な封筒に入れてお渡ししています。そんな工夫も患者さんの意欲を高めるのに役立っていると思います。



歯科衛生士 通次 愛(つうじ・まな)さん



患者に渡している「歯ブラシ処方箋」「歯間清掃具処方箋」「歯磨剤・洗口剤処方箋」と専用封筒

歯ブラシ処方箋



「ルシェロ」を使用。オリジナルを作りたいという夢も

ように見守り続けることも必要になる。

「ひろ歯科」は、これまでメンテナンスに力を入れてきたが、3年前からは新しいプログラムが加わった。「歯ブラシ処方箋」だ。

歯ブラシ処方箋とは、患者の口腔内の状況に合わせて、歯科衛生士が最適な歯ブラシをアドバイスすることを指す。このプログラムに使っている歯ブラシは、ジーシーの「ルシェロ」シリーズだ。

「ひろ歯科」の場合、メンテナンスは3～4か月に1度の患者が多い。歯ブラシ処方箋を作成するのは、歯磨き指導のTBIのときだ。1か月に1本の交換を推奨しているため、患者は毎回、メンテナンスのときに3～4本の歯ブラシを購入することになる。

そして、次のメンテナンスのときに、自宅での歯磨きの様子をチェックする。磨き残しがあるようであれば、ヘッドの小さい歯ブラシに変えたり、より患者が磨きやすいものに変えていく。あるいは、よく磨けているようであれば、

そのまま同じタイプを継続して使ってもらおうという。

「歯ブラシ処方箋」を始めるきっかけは、じつはササキさんでした。ほとんどおつきあいがなかったのですが、飛び込みで営業にいらした女性の営業パーソンさんが歯ブラシ処方箋を薦めてくれたんです。その提案に歯科衛生士が興味を持ったことから、「やってみようか」ということになりました」

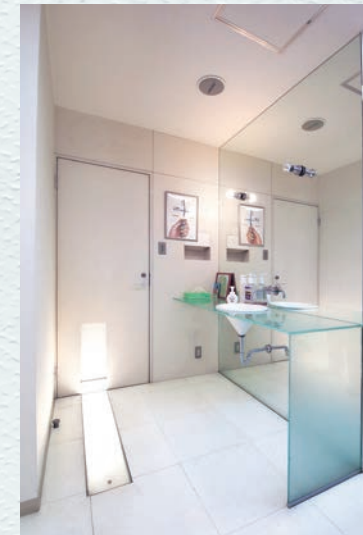
院内で導入を積極的に推したのは、歯科衛生士の通次 愛(つうじ・まな)さんだ。

通次さんは、より積極的に患者の生活習慣に介入できる予防ケアの方法はないかと探っていた。メンテナンスで口腔をきれいにしても、自宅での歯磨きが不十分では予防の効果も半減してしまう。モチベーションを維持するのに、「歯ブラシ処方箋」がツールとして最適と感じ、荒川院長に積極的に薦めたのだ。

「私も患者さんのためになることなら、新しいことにどんどん挑戦したいタイプ。通次を採用したのも、院内に



診療室から入り口方向を見た通路。外観から想像がつかないほど待ちスペースは明るい



洗面スペースも清潔感と透明感がある



デジタルレントゲンも完備

新しい風を呼び込んでくれるのではないかと期待したからです。その彼女が意欲を見せるプロジェクトならチャレンジしてみようと、スタッフが力を合わせて取り組むことにしたのです」

新しいツールも活用し 挑戦し続ける歯科医院に

現在、「ひろ歯科」のユニット数は6台。そのうち2台は予防専用に使われている。1日の患者数50～60人のうち、治療の患者は15～20人だ。

開業から24年経ち、患者層も変化してきた。「ひろ歯科」がある商店街も様変わりし、患者層も一時期は中高年が中心だったが、最近は駅前に大規模マンションが建ったことから、30代の患者も増えている。

歯ブラシ処方箋を機に始まった、患者の生活習慣に深く入り込む予防歯科も少しずつ成果が見え始めている。これまで年間2000本もの歯ブラシが患者の手に渡った。メンテナンスを継続する患者が増えてきた証拠と荒川院長は捉えている。

「これからも患者さんの生活習慣にも寄り添い、よりよい予防歯科を提供しようという姿勢は変わりません。そのトライアンドエラーには勇気を持って取り組んでいきたいですね。歯科治療に失敗は許されませんが、軌道修正が可能な予防歯科は新しいことにもチャレンジしやすい。また、情報発信もSNSが登場するなど、患者さんに働きかけるツールも時代とともに変化しています。そうした新しいツールも積極的に活用しながら、後ろを振り返らず、スタッフたちと一緒に楽しく歯科治療に取り組んでいきたいです」



荒川院長(左)とスタッフのみなさん

PROFILE

荒川 義浩 先生

●1989年 愛知学院大学歯学部卒業。大阪大学歯学部第2口腔外科入局 ●1990年 大阪府吹田市新千里病院歯科口腔外科勤務(現済生会千里病院) ●1994年 吉田歯科(大阪府守口市)勤務 ●1996年 ひろ歯科開業 ●2003年 現在地に移転 ●日本歯科用レーザー学会常任理事 ●日本接着歯学会会員 ●摂津市歯科医師会学術理事 ●著書『低侵襲で質の高いCo2レーザー臨床』(デンタルダイヤモンド社刊)

ひろ歯科

住所:大阪府摂津市千里丘2-10-2 TEL:06-6338-5888 HP:http://hiroha.dreama.jp/